

多摩川

六郷の渡し跡

●明治天皇
六郷渡御の碑

慶長5年(1600)に六郷大橋を架けたが、度々の洪水で破損・流失した為、貞享5年(1688)以降は渡船になり、江戸の町人や、対岸の八幡塚村が請負っていた渡船権が、宝永6年(1709)川崎宿に許可された。明治7年(1874)八幡塚村の鈴木左内が架橋するまで、渡し船だった。多摩川には記録に残る渡し場が、38カ所あった。

万年(屋)跡 大師新道

渡し船をおりて川崎宿に入ると、万年(屋)、会津屋、新田屋等の旅籠や茶屋があった。特に万年(屋)は、奈良茶飯が評判であった。

●川崎競馬場
元富士瓦斯紡績跡地

創立は古代。鎌倉時代に佐々木高綱が社殿を造営、江戸時代は川崎6カ村の総鎮守。山王さんと呼ばれて崇敬される。境内には歴史記念物が多く残されている。

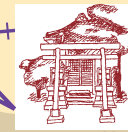
大正14年(1925)に六郷川に架けられて以来約60年間、工都川崎の産業発展を支えてきたその親柱は貴重な近代化遺産として、平成14年秋、稲毛公園に再現された。

川崎中央郵便局

ハローブリッジ

妙遠寺

二ヶ領用水を完成させた小泉次大夫と二ヶ領用水を再興した中興の祖・田中休愚の偉業を称える「泉田二君功德碑」、小泉次大夫夫妻の逆修塔、日純上人墓などがある。



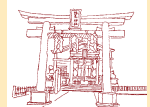
川崎稲荷社



真福寺

入口すぐ右側の庚申塔は、江戸時代の寛文5年(1665)作。阿弥陀如来像の台座部には「言わざる、聞かざる、見ざる」の猿3匹が彫られている。

稲毛神社



旧六郷橋親柱



東海道かわさき宿交流館



川崎市役所

市役所通り

川崎区役所

新川通り

市電通り

川崎信用金庫

歌碑 佐藤惣之助

京口棒鼻跡 関札の復元

芭蕉の句碑

川崎警察署

無縁塚

京急八丁畷駅

享保元年(1716)紀州藩主吉宗が、八代將軍継承で江戸下向の折り、本陣近くのこの稲荷社境内で休息したと伝えられる。

田中休愚は、宝永元年(1704)に本陣職を継ぎ、後に名主・問屋役を兼帯。困窮していた宿の財政を幕府の助成金と、渡船請負権を得て建て直した。

別名閻魔寺として有名。戦前縁日に地獄絵の「絵解き」があった。仮山碑(名園碑)がある。



田中本陣跡



一行寺

紅燈巷女萬霊塔: 江戸時代、宿場で旅人の給仕をし、遊女を兼ねた女性達の供養塔。



宗三寺

東海道川崎宿を偲ぶ文化施設として開設。浮世絵、錦絵を中心に郷土資料や各種の美術文化を紹介している。



砂子の里資料館



佐藤本陣跡

宿の中で、信頼がおける豪農の家が大名が泊まる本陣となり、門構え、玄関付きが許された。この佐藤本陣があった場所に、詩人、佐藤惣之助(1890~1942)の生家があった。



小土呂橋跡

小土呂橋は新川堀の悪水路に架かっていた橋。橋の欄干の親柱が現在の交差点の歩道脇に保存されている。

教安寺



●徳本上人の六字名号碑(金文字)(1816)
●教安寺の山門前にある富士講の灯籠は天保11年(1840)に京口見附(棒鼻)に建てられ、「宿内安全」と刻まれている。

元禄7年(1694)5月江戸を立ち、故郷の伊賀へ帰るさい、上の棒鼻(宿のはずれ)で江戸から連れだってきた門弟たちと句を詠んで別れを惜しんだ。



芭蕉の句碑



芭蕉ポケットパーク

江戸時代、災害や飢饉などで亡くなった身元不明の遺体を埋葬したといわれている。これら無縁仏の供養のための「供養塔」が保存されている。



無縁塚

京急八丁畷駅



東海道かわさき宿交流館

TOKAIDO KAWASAKI SHUKU KORYUKAN

東海道川崎宿に関する歴史・民俗等の資料展示を行うとともに、市民相互の交流を推進し、市民文化の振興を図るために、平成25年(2013)10月に開館。

タッチパネルで操作できる映像や模型などによって、川崎市の歴史・文化を掘り下げて学ぶことができる文化交流拠点。

